

3月まで練習予定を更新しました(1月20日)。

新人戦団体戦優勝(2013年以来)。

今回の収穫は、練習したシングルスで少し選手が自信を持ち、前向きになり始めていることでした。決勝戦は相手がエースダブルスを封印し、ハンディを課したのでしょうか、真意はわかりませんが、こちらはもともと全力で行くつもりでしたので、結果を意識せずに来たと思います。

とはいえ、まだまだ特定の選手に頼っているようでは先に進めません。ここから再び基本に戻って練習です。

1月の旭川、3月の鹿児島に向けて、帯広南商業バドミントン部に温かいご声援をお願いします。



令和元年度 高体連団体優勝。

帯広大谷を3-0で破り、19年ぶりの団体優勝を決めました。

令和元年の記念にふさわしい結果となりました。ダブルスは準優勝、第3位。シングルスは第4位で全道大会に向かいます。



帯広市総合体育館にて



函館アリーナ 表彰式にて

インターハイ予選終了。

団体北ブロック第3位。個人複北ブロック第3位。個人単2回戦敗退。

特にダブルス橋本・奥秋は、ノーシードから勝ち上がり、第3シードを破り、第2シードもあと少しで破ればインターハイというところまで追い詰めました。よくやったとも言えますが、あと1点というところでその1点が遠いという、苦い経験をしました。

誰一人全道的に有名な選手がいるわけでもなく、管外からの留学生がいるわけでもなく、純粋に十勝の公立校で勝負したうえで、今のところの精一杯の結果だったと思います。

選手は皆よく健闘しました。立派でした。

2019 インターハイに届かず(報告)

道大会までの道のり

新人全道で団体は第3位に終わり、シングルスカの強化、ダブルスで攻めに徹することを念頭に練習を続けました。

5月10連休の大半を青森遠征に費やし、ゲームの中で力を発揮できるかどうかの課題を克服しなければならない状況でした。春季大会のダブルス優勝、高体連支部予選の団体優勝と、チームに勢いがついた状態ではありましたが、その後の高体連支部予選中のダブルス・シングルスが振るわず、チームとしてのまとまりやバランスも失いかけたところから、6月のインターハイ予選が目前に迫りました。

もともと、やるだけのことはやっておきたいとの気持ちから、大会前に再び青森遠征、そして森町での研修と、試合慣れ、場所慣れも考えて長期にわたり函館に入りました。

(次ページ 写真はネイパル森での練習風景)



道大会(函館)にて

団体は北ブロック準決勝で前回と同じ深川西に敗退。冬は1-3、今回は0-3ということで、見た目は後退に見えるかもしれませんが、オーダーは正々堂々の勝負でしたし、橋本・奥秋が深川西エースダブルスとの勝負で2ゲーム目は拮抗していましたので、個人戦にも期待が持てました。

個人戦は今まで2戦2敗の旭川実業第3シードにファイナルで勝利。特に、ファイナルゲーム20-10から追いつかれたときの、1点の遠さは厳しいものでした。奥秋も後ろからよく打ち続けたと思いますし、奇跡のドライブシーブも出ました。

そこで勝ったことで普通はひと山越した感じで次の試合がダメになるものですが、次の深川西第2ダブルスとの試合、ここは今まで1勝1敗で苦戦が想定されました。よく攻め切り、こどもファイナルで勝利。特に、第2ゲームを取るときに橋本のサービスはふだんあまり使わないコース。勝負師でした。

いよいよ旭川実業第2シードとの初対戦。1ゲーム目は相手に硬さが見え、取ることができました。2ゲーム目15-11から相手が本来の調子を取り戻し、覆しに来るのがわかりました。先に20点を握られましたが追いつき、20-20のデュースから21-20、ここで1点取ればインターハイ出場でした。橋本のロングサービスは、良い選択です。しかし、10センチぐらいのアウトを相手が見極めました。これは相手の度胸と経験が上回ったのだと思います。ファイナルゲームは10-11からチェンジエンスしたものの、最後は足がついていかず、ミスもあり、残念ながら勝つことができませんでした。

大会前から、インターハイに行くべく顧問としては最善の準備をしたつもりでいました。また、インターハイに行くチャンスが十分にあることも実感していました。しかし、その実感が前回の経験から顧問にはあっても、経験のない選手にはなかったかもしれません。なくても、逆に硬くならず試合ができたことは良かったのですが、あと1点というときにどうすれば良かったのか、もう一度自問したいと思います。

2014 インターハイにて(報告)

道大会までの道のり

新人全道で団体は準優勝できたものの、何か足りないことは明白でした。宮井は3月中旬に私費で松本市に向かい、全国選抜大会を見学しました。

全国で8以上に入るためには、やはりしつこく攻撃を続けることだと感じ、戻った後はそれぞれの特性を生かしながら練習を続けました。

毎年僕が教えている生徒に言うことですが、高校2年生の秋までは短所(ゲームにおける致命的なミスや動き・ショット)の克服に努めているのですが、冬からは長所(スマッシュが速いとかレシーブがうまいとか)を生かしたゲーム作りをしています。

そんな中、内田は攻撃の継続性を強化し、館野はサーブまわりと前衛でのチャンスづくりに励みました。

道大会(小樽)にて

6月18日～小樽市総合体育館でインターハイ予選が行われました。

団体は北ブロック準決勝、旭川実業に2-0で王手をかけるも、トップシングルス以下逆転負け。

沈滞ムードに陥ってしまいがちですが、自分は最終日館野のシングルスが終わるまではあきらめないつもりでいました。選手も団体が終わるとあとは館野・内田のみを残して実質引退です。不思議と力は抜けていて、リラックスしていたと思います。

元帯広大谷の森田先生からは何度か激励をいただいております、応援に来ている父母はもちろんのこと、すべての人に感謝・返礼の気持ちをもって試合に臨みました。

個人複は館野・内田組が、前日2-0で完勝していた実業に、苦しみながらも2-1で勝利し、支部予選で多少は優越感をもっていった帯広大谷に2-1で勝ち、インターハイ出場を決めることができました。もう一度試合をしたら、勝てるかどうかかわりません。それほど両者とも手ごわく、成長著しい下級生も含まれていました。

「最後は、やはり攻撃しなければ勝てない」。これが今回得た教訓です。



千葉県でのインターハイということで、2年前10月にお邪魔した西武台千葉での約束を果たすため、再び練習にお邪魔しました。桶田・片桐、有川・小沼、そして荒木擁する西武台千葉はやはり強いです。胸を借りるにはもったいないメンバーとの練習を終えました。高瀬先生・稲田先生のメリハリのある指導も、非常に参考になります。

また、南商のこのホームページに載せた381杯のことを気にかけていただき、足立区役所の大和田さんからは景品までいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。大和田さんとは生浜高校でのダブルスでも一緒させていただきました。試合での心構えや感想も、示唆に富んだものでした。



その後は専修大学にお邪魔し、梅尾監督のもと大学生との練習に臨みました。

いよいよ当日、館野・内田の見納めです。相手は倉敷中央高校、全国常連の岡山第一代表でした。結果は19-21、21-16、17-21とファイナルで敗退しましたが、館野が前に突っ込み、後ろから内田が打ち込むという、王道スタイルが通せたことは収穫でした。



今後とも応援よろしく願いいたします。

なお、OBの方を中心に5万円ほどの寄付金をいただき、部旗の製作にとりかかりました。

「勇気をもって前へ」と書かれた水色の旗です。ありがとうございました。

帯広南商業高等学校バドミントン部 活動紹介 (R1. 5月～)

目 標	全種目での全国大会出場を目標に、自主的で活発な部活動を目指しています。
部員数	女子9名 男子1名 マネージャー2名
顧 問	宮井 大介 (携帯:090-8275-0744)・佐藤 友介
練習日	月・火・木 15:45～19:00 金 基本的に休み 水 15:45～17:00 トレーニングもしくは森体一般開放 19:00～21:00 夜練 (南翔クラブと合同) 休 日 9:00～13:00または13:00～17:00

平成31年 4月 以降の活動報告

春季大会 4月20日(土)～21日(日) 札内スポーツセンター

個人ダブルス 橋本・奥秋絵 優勝 中村柚・江口 準優勝 原・広瀬 第5位 古川・渡辺 第8位
個人シングルス 橋本風香 準優勝 江口 遥 第6位 原 弥涼 第7位 広瀬友乃・奥秋花梨 第9位
柏村茉那 ベスト16

国体道予選 5月9日(木)～12日(日) 伊達市総合体育館・室蘭市体育館

個人ダブルス 奥秋・橋本 2-1 室蘭清水が丘 2-1 札幌北斗 0-2 旭川実業 ベスト16
中村柚・江口 2-0 網走南が丘 0-2 札幌龍谷
原・広瀬 2-1 苫小牧南 0-2 札幌北斗
個人シングルス 橋本風香 0-2 旭川実業

勝ち上がれば南北海道のとわの森、札幌北斗、札幌龍谷、北北海道の旭川実業、深川西などと戦うことになります。そうしたトーナメントの中、奥秋・橋本が唯一札幌北斗のダブルスに勝ち上がったことが収穫でした。また、3組と有力校の推薦選手に負け、その負け方が圧かに屈した形だったので、課題がはっきりしました。自分たちの形が通せれば負けはしないということに気づいたと思います。

シングルスは、2ゲーム目にネットがらみのミス等で20-20まで拮抗できた場面が、19点どまりだったところを見ると、やはり大前提としてラケットでシャトルを返球するところ(いわゆる我慢)が十分ではないと感じました。

これから短い期間で修正、立ち向かうところから頑張ります。

高体連支部予選 5月23日(木)~25日(土) 帯広市総合体育館(当番校:帯広柏葉)

個人ダブルス 中村柚・江口 準優勝 橋本・奥秋絵 第3位

個人シングルス 橋本 風香 第4位

インターハイ予選 6月11日(火)~14日(金) 函館アリーナ

団体戦 3-1 旭川北高校 3-0 稚内高校 0-3 深川西高校

個人複 中村・江口 2-0 北見柏陽 0-2 深川西

橋本・奥秋 2-0 網走南が丘 2-1 旭川実業(第3シード)

2-1 深川西 1-2 旭川実業(第2シード)

個人単 橋本 風香 2-0 根室 0-2 旭川実業

夏季大会(北海道選手権予選) 7月20日(土) 21日(日)

帯広大谷・芽室町総合体育館

ダブルス 江口・柏村 第3位 古川・藤川 第6位

シングルス 江口 遥 第5位 柏村 茉那 第8位

北海道選手権(小樽市) 8月16日~19日

ダブルス 江口・柏村 2-1 小樽未来創造 0-2 北星女子

シングルス 江口 遥 2-0 釧路江南 1-2 旭川実業

個人単は江口が同郷の澤沼選手に競ることができた部分に、可能性を感じました。

秋季大会(勝毎杯争奪) 9月21日(土) 28日(土) 帯広南商業・芽室町総合体育館

ダブルス 江口・柏村 第4位 古川・藤川 第6位

シングルス 江口 遥 第3位 柏村 茉那 第8位 古川 梨乃・藤川 愛結瑠 ベスト16

新人戦(個人) 11月16日(土) 17日(日) 帯広三条・芽室町総合体育館

ダブルス **江口・柏村 第5位** 古川・藤川 第7位 植野・渡邊 第9位

シングルス **江口 遥 第3位** 柏村 茉那 第8位 藤川 愛結瑠 ベスト16

ダブルスの順位は下がりましたが、内容は決して悪くなく、修正する部分が見つかり、収穫がありました。

新人戦(団体) 12月14日(土) 芽室町総合体育館

決勝 3-2 帯広大谷 優勝

新人戦全道大会 1月13日(月)~16日(木) 旭川市総合体育館

団体 2回戦 3-1 旭川南 準々決勝 0-3 深川西

個人複 江口・柏村 2-0 網走南が丘 0-2 旭川実業

個人単 江口 遥 0-2 深川西

